



事業厚生常任委員会報告 【福井県今立郡池田町】

報告者 事業厚生常任委員会委員長 田中 圭介

視察内容：空き家や公共施設の利活用の取り組みについて

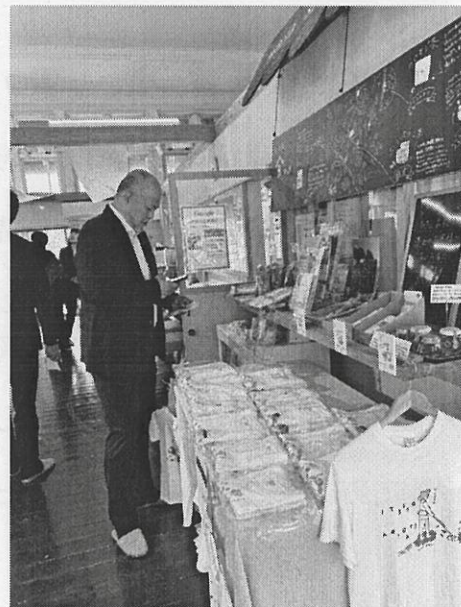
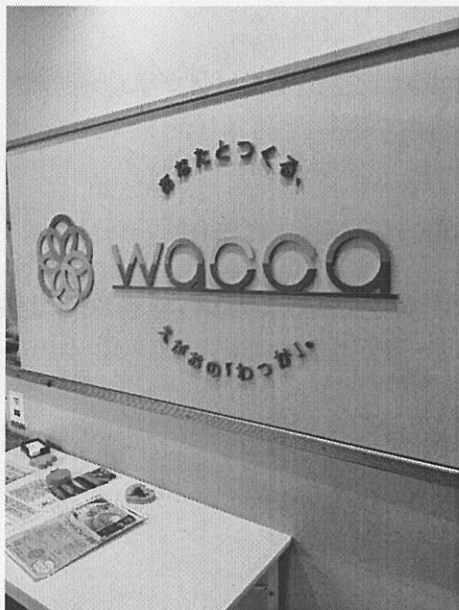
池田町は廃校後の小学校をリノベーションしたり、空き家を活用して宿泊施設を運営するなどしており、一体どのように利活用しているのかを聞かせていただき、施設見学もさせていただいた。

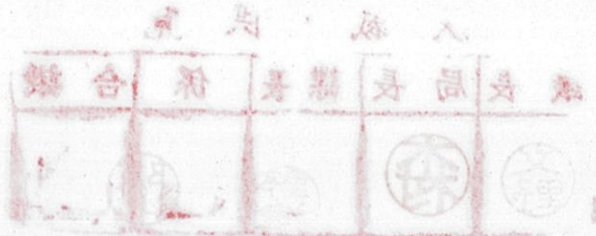
また、地方創生は「まちづくり」と捉え、「まちづくり」とは「まち」に「価値」を加えることで、「まちづくり」より「まち育て」に取り組んでいる。

今後の人口予測は厳しい状況にあるが、人口の「自然減」は止められないが、「社会減」は止められるとして、様々な取り組みを実践し、関係人口を増やすための施策にも力を注いでいる。

見学施設①「わくらボ」地域産業等支援施設(起業支援センター)

- ・旧小学校分校をリノベーションして、テナントが入れる施設を整備(2017~)
- ・子連れでくつろげるカフェ「wacca」を地域おこし協力隊 OB が開設したり、スタンドグラス工房や、さとやま子育てコミュニティ、認可外保育施設「森のようちえん いけだのそら」などが入っている。





- ・ 1年契約で、1室の利用料は広さに応じて月 8,500 円～63,000 円。

現在は満室。

- ・ グッドデザイン賞 2018 公共施設・ウッドデザイン 2018 建築・空間分野ソーシャルデザイン部門・ふくい建築賞大規模建築部門最優秀賞などを受賞。

見学施設② いけだ暮 LASSEL

- ・ 池田町役場 総務財政課の中にある、
移住と空き家の総合窓口。
- ・ 情報の提供や希望者と持ち主、地域とのマッチングにきめ細かく対応する。
(年5件程度成約)。
- ・ 移住への支援だけでなく、移住後の暮らしの支援も対応している。
- ・ 空き家やお墓の管理を受託(今後検討)
- ・ 仕事情報提供、HP 管理運営、SNS 運営もおこなっている。



見学施設③ まちの駅「こってコテいけだ」(2012～)

- ・ 地域観光拠点整備で1億円の経済効果。
- ・ 年間来客数7万1千人、年間売上9,300万円(令和6年度)
- ・ コンセプトは「風土のコンビニ」町民が普段買っているものを来町者にも買ってもらおう＝池田の文化と出会ってもらおう。
- ・ 池田町の「あたりまえの暮らし」を商品にする
- ・ 池田町には、いわゆる「コンビニ」は1軒もない。

見学施設④ 悠久の宿 ふらふ (富田家住宅)

・空き家だった築 120 年の古民家をモダンで快適な空間に改修した 1 棟貸しホテル。

・最大 8 名まで利用可 1～2 名 平日 88.000 円/泊

休日・休日前 110.000 円/泊

3～8 名 +27.500 円/人

見学施設⑤ ～農村 de 合宿キャンプセンター～ (2015～)

・廃校になった小学校の校舎、体育館を利活用して平成 28 年にオープンした合宿施設。【ふるさと創造事業活用】

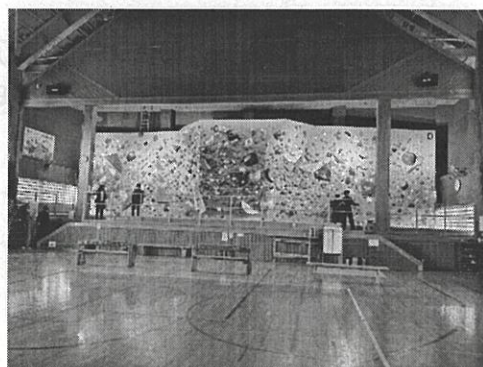
・福井国体を機に、体育館に「クライミングウォール」クライミング 3 種+宿泊施設のクライミングセンターを設置。【「新ふるさと創造」推進事業活用】

・宿泊可能な、日本初のクライミング施設。

・キャンプセンター利用者 4,000 人 クライミング利用者 4,000 人 【令和 6 年度利用実績】

・体育館、グラウンド、音楽スタジオ、食堂兼研修室、宿泊室など。

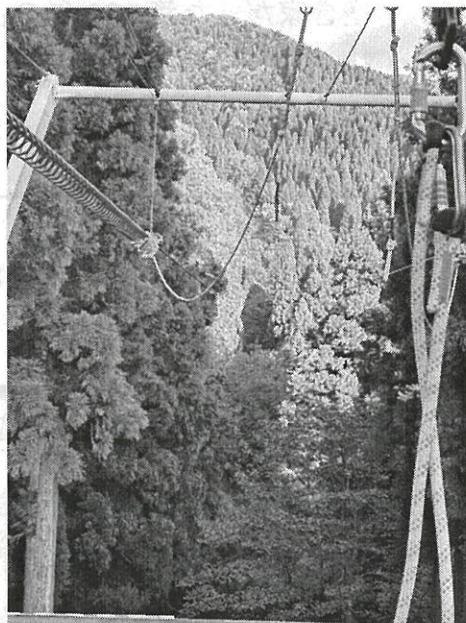
・2025 年 9 月より宿泊の受け入れ停止 (再開は未定)



見学施設⑥ ツリーピクニック アドベンチャーいけだ

・全長約1 kmのメガジップライン、樹上に
あるジャングルジム「アドベンチャーパーク」、
足羽川を2.1 km下る「アドベンチャーボート」、
宿泊可能なツリーハウス・ログハウスなど、
山の中で楽しめる施設。

- ・ジップラインの整備費 2.5 億円。
- ・運営会社は株式会社 まち UP いけだ。



★今回の視察では、今まさに熊取町でも課題になっている遊休施設の活用方法、また、老朽化した公共施設や今後、一層増えると見込まれる空き家の問題などを、どのように利活用できるのかに対する一例に触れ、また体験することで、熊取町ではどう活かしていくかの検討材料として大変参考になった。

また、ツリーピクニックアドベンチャーいけだは、永楽ゆめの森公園・雨山・永楽ダム・野外活動ふれあい広場周辺一体の活性化への取り組みの参考になった。